



**聖(正)観音**  
1面2臂  
観音の基本型。変化観音に対して聖(正)観音という。化仏をつけ、蓮華を執る。

**不空罽索観音**  
1面3目8臂

大悲の罽索を以て救うと説く。罽索は獣を捕える綱、索は魚の釣糸、転じて「衆生をもれなく救い上げる」。条串の代わりに鹿皮を着ける。



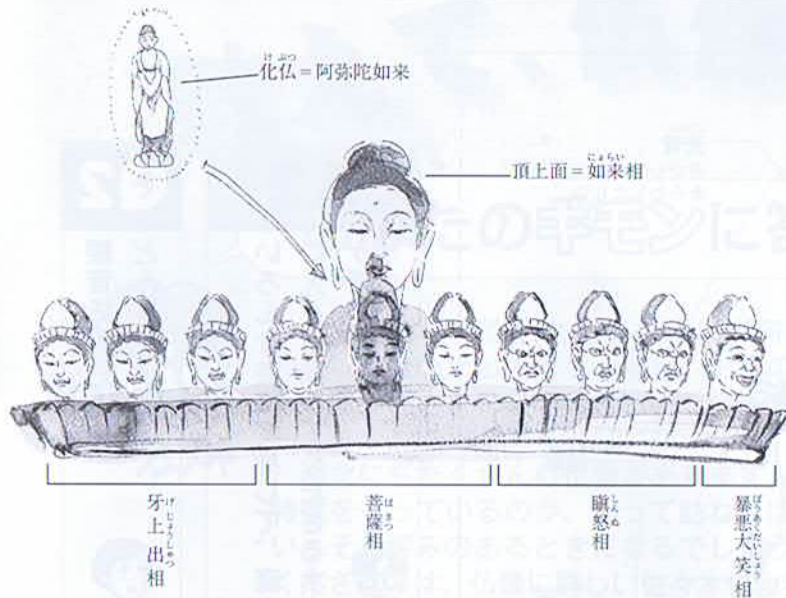
**如意輪観音**  
1面6臂(2臂像も)

変化観音の中では成立が遅い。人々を教化しながら富や知恵を授けるという。如意宝珠=衆生に財宝と福德をもたらす。輪宝(法輪)=人々の迷いを打ち砕く。日本でのちにつくられた2臂像は琵琶を抱くものもある。



**十一面観音**  
頭上に10~11面2臂  
(まれに4臂も)

多面多臂の変化観音では、最も初期に成立。頭上面にはそれぞれに名前と意味がある(右図)。水瓶(蓮華を挿す)を左手に持つ。



▲十一面観音、頭上面の名称

**A4**

基本形は一面二臂の聖観音ですが、たくさん顔や腕を持つ観音(変化観音)も作られました。

**Q4**

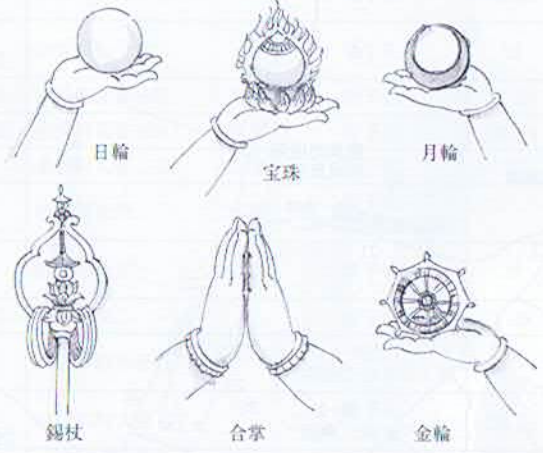
観音さまにはいろんな種類があるって聞いたけど…?

**A7**

南方海上に浮かぶ補陀落山が観音の浄土です。

**Q7**

観音さまはどこに住んでいるの?



**千手観音**  
頭上に11面(あるいは27面) 1000臂(多くは42臂)  
多面多臂の姿が最大限に発展した形。その慈悲の大きさは無限といい「大悲観音」とも呼ばれる。それぞれの掌に目がある。1000本の手を表わす像が本来の姿であるが、1本が25本分の働きをすることで 1000 ÷ 25 = 40本、合掌手を加え42臂で表わすことが多い。

◀千手観音のおもな持物

**准胝観音**  
1面3目18臂  
准胝仏母・七俱胝仏母とも呼ばれる。請仏諸菩薩の母という意味。求見・安産に利益があるという。



**馬頭観音**  
3目、3面2臂(8臂)・4面8臂などさまざま  
馬が神格化されたビシュヌ神が仏教に取り入れられて成立したという。馬頭を戴く忿怒相は、悪を砕く特異な姿。馬頭明王とも呼ばれる。

**解説**

観音の姿は、観音信仰の拡大とともに、インド的な多数の顔や腕をもつ姿が観音像にも応用されて、観音のもつ威力を具体的に形相に示す異形像(総称して変化観音)が成立して、十一面観音や千手観音など、多面多臂の観音が生まれてきました。その見分け方は左図のとおりです。

**解説**

「華嚴経 入法界品」によると、観音の浄土として南方海上に浮かぶ、花や果実・樹木に囲まれた泉の美しい補陀落山が説かれています。そこで観音菩薩は一切衆生を導くため、大慈悲の法を説いているといわれています。

説ありますが、その背景には、一つにヒンドゥー教ルドラ神(十一荒神)信仰の影響や、古代インドの神話「リク・ヴェータ」に説く、天界・空界・地界に各々11の神を配し33神とする信仰との関わりがうかがえます。

また「十一面観音神呪経」には、十一面観音の功德として、「十種勝利」と「四種果報」が約束されると説かれています。「十種勝利」とは現世利益のことで、①病いを除く、②常に諸仏に守られる、③衣食・財物に恵まれる、④怨敵打破、⑤全ての人に慈悲の心が生じる、⑥害虫・熱病から身を守る、⑦刀杖難を除く、⑧水難を除く、⑨火難を除く、⑩横死から免れるの十の功德です。また「四種果報」とは、来世における果報をいいます。①命終の際に諸仏を見ることのできる、②永久に地獄に堕ちない、③禽畜の害に遭わない、④無量寿国に転生できるなどとされています。

**解説**

十一面観音は変化観音のうちでも最も早く、6世紀頃に成立したと考えられています。「11」の数の起源については諸説あります。

**A6**

湖北地方には、とくに十面観音が多く伝わっています。

**Q6**

湖北に多いのはどの観音さま?

**解説**

「観無量寿経」には、観音は大勢至菩薩とともに阿彌陀三尊を構成し、観音は阿彌陀の慈悲の、勢至は阿彌陀の智慧のなたらきであると示されています。観音菩薩が額に化仏をつけるのは、阿彌陀の慈悲の象徴であることを示しているのです。

**A5**

左手に蓮華を持ち、額に化仏(阿彌陀)をつけることです。

**Q5**

観音さまの目じるしは?





**あやしい 取材班**  
**雪の伊香路を観音めぐり**  
**お守りの人たちの**  
**あたたかさに寒さはぐれる**

伊香の観音さまは、電車の駅から遠いところや、人里離れた場所におられる場合が多い。とくに雪の多いこの冬、空模様を気にしながらの拝観は難儀。如何にいたそう...と悩める取材班に協力を申し出てくださったのは、木ノ本駅前に拠点をもち伊香交通さん。奥びわ湖観音めぐりのコースをいろいろ用意している心強い味方だ。さっそく、わたしたちの取材の意図にそった拝観コースを提案し、予約も入れてくださった。取材班は、木ノ本駅前に到着したジャンボタクシーを拝み、期待とともに乗り込んだ。

2011年1月25日  
 雪が降ったり晴れたり曇ったり

今回のあやしいメンバー  
 西岳人 ひろ 千らん



▲伊香路の観音さまを案内して下さった伊香交通の中島秀雄さん

ご縁結びはジャンボタクシーで  
 伏し目がちの女性のよう  
**医王寺の十一面観音さま**  
 ひとみの色は金と銀  
**田神山観音寺の聖観音さま**  
 奥びわ湖の観音さまめぐりならお任せ！という伊香交通さん。拝観先への予約も含め、お客さんの要望に添った案内が好評だ。運転をして下さる中島秀雄さんは、ドライバー歴10年。「観音さまめぐりのお客さ

まは、間近で拝観できることを喜ばれますよ」と、迷うことなく伊香の観音さまにご縁を結んでくださる。

今日の行程は、10時に木ノ本駅を出発し、9ヶ所の観音さまを巡って17時帰着予定。移動距離が数キロに及ぶ区間もあり、しかも雪道。おまけに取材も交えるという強行軍なので、かなりダンドリよい行動が必要である。大丈夫か、取材班？

そんな一抹の不安を抱きつつ最初に向かったのは大見の医王寺。高時川と杉野川が出合う川合の集落から、高時川に沿って進む。右側は雪の壁だ。橋を渡るとまっ白なお堂の屋根が見えた。参拝用の道は空いているが人の姿はない。通りかかった村人が、「連絡しはったんか？」と声をかけてくれる。やがて電動自転車を押してやって来る世話人さんの姿が見えた。

お堂に案内され記帳すると、テープレコーダーから女性の声で案内が流れてきた。平安時代後期の十一面観音さまは152cmと等身大で、伏し目がちの女性のような。「台の上に載って近くでどうぞ」と勧められ、順番にじり寄りお顔を拝見させてもらった(詳しくは20ページ)。



▲電動自転車を押して来てくださった世話方さん



▲医王寺の軒先で雪の舞う音を耳を傾ける取材班



▲雪におおわれた山間の道を行くジャンボタクシー



**聖観音立像**  
 (お前立ち)  
 田神山観音寺  
 (長浜市木之本町木之本)  
 ご本尊は秘仏。もとは伝教大師作と伝わる等身大の像。寺には伊香西国三十三所観音霊場の木版を所蔵する (写真提供/田神山観音寺)



**聖観音立像**  
 (本尊 秘仏)  
 田神山観音寺  
 (長浜市木之本町木之本)  
 (写真提供/田神山観音寺)



**十一面観音立像**  
 千手堂(長浜市木之本町大音)  
 等身大のどっしりとした観音さま。八臂で全身まっ黒。口元の朱が鮮やか



**千手観音立像(秘仏)**  
 南卦寺(長浜市木之本町杉野)  
 色白で上品なお顔立ち。持物も鮮やかに彩色が施されている (写真提供/高月観音の歴史民俗資料館)



**十一面観音立像**  
 西光寺(長浜市木之本町田部)  
 像高約60cm。信長の焼き討ちに遭った時、村人に守られたと伝わる。隣の薬師堂には、成人病にご利益があるといわれる薬師如来を祀る (写真提供/西光寺)

**おもな参考文献**  
 「観音路」(奥びわ湖観光連盟)  
 「西浅井町の仏教美術」(西浅井町教育委員会)  
 「湖北三十三観音札所」(川村あきら)